

令和5年度全国学力・学習状況調査より

～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する 結果の分析と改善に向けた今後の取組について（中学校）～

福島市教育委員会

1. はじめに

福島市教育委員会では、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を市の教育施策に係る検証と改善に役立てるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、本市児童生徒の学力の一層の向上を図っていきたいと考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力の状況、学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、学校名を明らかにした公表は行っておりません。

2. 調査の概要

- 調査日時 令和5年4月18日（火）
- 調査対象
 - ・市立小学校43校の第6学年の全児童
 - ・市立中学校19校の第3学年の全生徒
- 調査内容
 - ・小学6年 国語、算数
 - ・中学3年 国語、数学、英語
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3. 教科に関する調査の結果（平均正答率）

(1) 小学6年

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	69%	67%	67.2%
算数	63%	61%	62.5%

(2) 中学3年

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	70%	69%	69.8%
数学	47%	46%	51.0%
英語	42%	41%	45.6%
（話すこと）	9%	—	12.4%

※今年度は生徒用タブレット端末を活用し、英語「話すこと」調査が行われました。

4. 全国の結果からわかる本市の特徴（○成果となる主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学6年

国 語	算 数
○ 学年別配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うこと。 ○ 目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較したり、文章を読んで理解したことを基にしたりして、自分の考えをまとめること。 ▲ 図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ▲ 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと。	○ 数量の関係に着目して問題場面を解釈し、数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすること。 ○ 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を捉えること。 ▲ 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる二つの数量の関係について考察すること。 ▲ 基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察すること。

(2) 中学3年

国 語	数 学
○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えたりすること。 ○ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 ▲ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 ▲ 文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	○ 不確定な事象について、情報を分類したり整理したりすること。 ○ 基本的な平面図形の性質が成り立つことを証明すること。 ▲ 自然数の意味を理解すること。 ▲ 反比例の意味を理解し、事象の特徴を的確に捉えること。
英 語	英 語（話すこと）
○ ある状況や場面における英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 ○ 事実や考えが書かれている英文を読んで、事実と考えを伝える言語の働きを理解すること。 ▲ 事実や自分の考えを整理して、まとまりのある文章を書くこと。 ▲ 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を書くこと。	○ 日付などの基本的な語彙について、英語で話すこと。 ○ 相手からの質問に対して、おおむね正確な英語で答えること。 ▲ やり取りの場面において、適切な表現を用いて英語で質問をすること。 ▲ 単語のみでなく、まとまりのある英語で話すこと。

福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

中学3年国語

育っている力

- ① 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えたりするなど、伝統的な言語文化に関する基礎的な力が育っています。
- ② 意見と根拠など情報と情報との関係について理解する力が育っています。

育てたい力と手立て

- ① 読み手の立場に立ってわかりやすい文章に整えて表現する力
→ 文章を書く活動において、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認すること、その考えを支える根拠としてどんな事例等をあげればよいかを検討することなど、考えと事例等との関係を明確にしてわかりやすく考えを書く指導を大切に、学習を進めます。
- ② 説明的な文章の内容を正しく理解した上で、文章の中心的な部分と付加的な部分について捉え、要旨を把握する力
→ 文章を読む際に、中心となる筆者の主張等について自分の知識や経験に基づいて互いの意見を交流する活動を充実させるなど、要旨についての自分の考えをまとめる学習を大切にします。

中学3年数学

育っている力

- ① データの傾向を読み取るために必要となる知識及び技能が育っています。
- ② 基本的な図形の性質について、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する力が身に付いています。



育てたい力と手立て

① 正の数と負の数の必要性和意味を理解する力

→ 日常生活や社会の事象を数学的に考察し表現する場面では、事象を自然数の範囲で捉えたり、数の範囲を拡張して考えたりする学習を大切にしていきます。

② 二つの数量の変化や対応の特徴を適切に考察する力

→ 関数を用いて事象を捉え考察する場面では、表、式、グラフを用いて、比例や反比例の意味を正確に理解する学習を大切にしていきます。

中学3年英語(「話すこと」を含む)

育てている力

- ① ある状況や場面における英語を聞いて、情報を正確に聞き取る力が育っています。
- ② 事実や考えが書かれている英文を読んで、事実と考えを伝える言語の働きを理解し、それぞれを区別して読む力が育っています。

育てたい力と手立て

① 事実や自分の考えなどを整理して、まとまりのある文章を書く力

→ 言語活動を通して、自分の考えや気持ちを表現するための語句や文法事項等を理解する指導を行うとともに、よりよく読み手に伝えるために考えながら書くことを大切にしたい学習を進めます。

② 目的や場面、状況等に応じて、即興で適切な語彙や表現を用いて話す力

→ 聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えを理由とともに即興で英語で話す活動を継続的・計画的に取り入れることで、話すことに習熟し、子ども同士の学び合いや教師からの助言により、話す量と質を改善する学習を大切にしていきます。

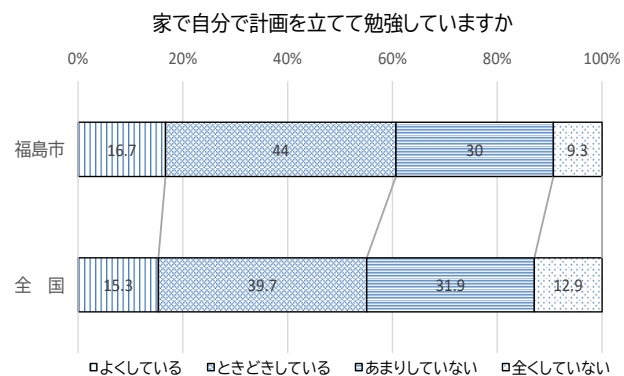
～中学校・生徒質問紙調査の結果から～

本市の子どもたちのよい点

○ 「家で自分で計画を立てて勉強する」

『家で自分で計画を立てて勉強している』という質問に対し、「よくしている」「ときどきしている」と回答した生徒の合計の割合は60.7%であり、全国平均を5.7ポイント上回っています。

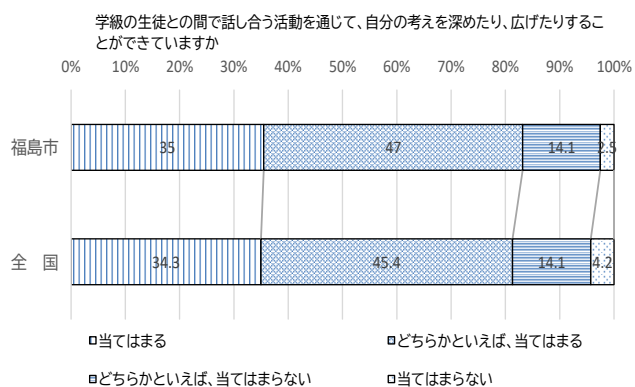
こうした本市の子どもたちのよさをさらに伸ばしていけるよう、「家庭学習のスタンダード（福島市版）」等を活用しながら、子どもたちが自ら目標を設定し、その達成に向けて努力を継続していけるよう支援していきます。



○ 「話し合いを通じて、考えを深めたり広げたりすることができる」

『学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか』という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計割合は82.0%であり、全国平均を2.3ポイント上回っています。

8割を超える生徒が、有用性を感じながら授業における話し合いに取り組んでいる様子が伺えます。この実態を踏まえ、今後の指導の充実につなげていきます。

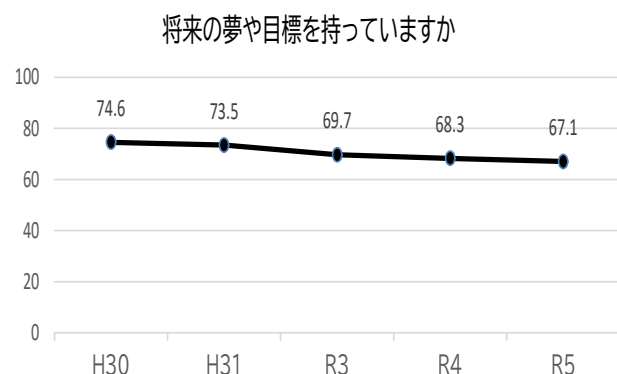


本市の子どもたちの課題

○ 「将来の夢や目標を持っている」

『将来の夢や目標を持っていますか』という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計の割合は67.1%であり、全国平均を0.8ポイント上回っています。

しかし、本市の過去5年間の推移を見ると、最も低い値となっています。子どもたち一人一人が将来へ向け夢を膨らませ、目標に向かって努力を継続していけるよう、授業や学校行事等の内容を工夫して行うことを通して、キャリア教育の充実を図っていきます。



本市の子どもたちの家庭での学習時間

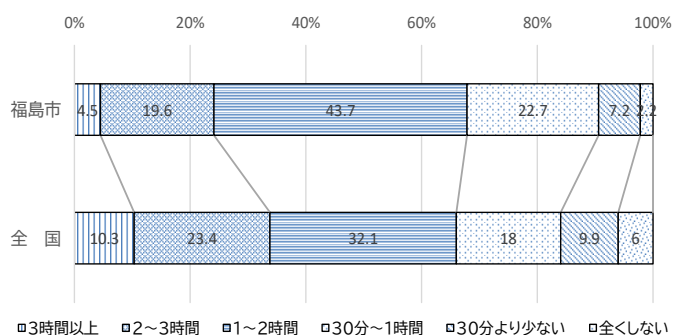
○ 「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」

平日1時間以上、家で勉強している生徒の割合の合計は67.8%であり、全国平均を2.0ポイント上回っています。

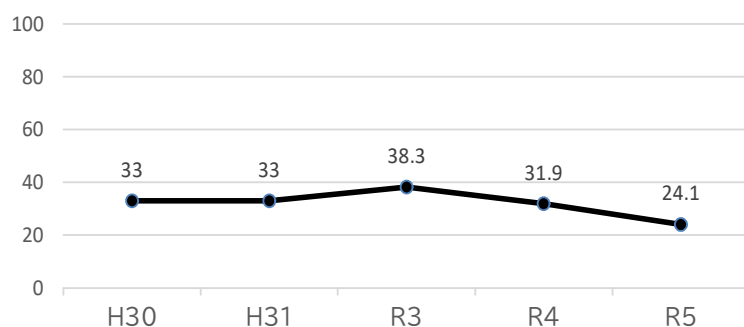
一方、「2時間以上」で比較すると、全国平均を9.6ポイント下回っており、家庭学習の量的な確保が課題であると言えます。

さらに、過去5年間の推移に着目すると、「2時間以上」の割合が下降傾向に推移していることもわかります。

家庭において、ある程度まとまった時間学習に取り組む習慣は、すぐに身に付くものではありません。引き続き、授業での学習内容と連携した取組の工夫や、各中学校区における小学校との連携、家庭との連携を図りながら、量的な確保を目指した家庭学習の習慣化につなげていきます。



平日1日当たりの勉強時間(2時間以上)



福島市教育委員会の学力向上への取組

○ 日々の授業の充実に向けて

- ・ I C T機器を積極的に活用し、各教科等の特質に応じて学習活動の充実を図るために、I C T指導員・支援員を効果的に活用し、生徒の学習活動を支援します。
- ・ 年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、個々の教員の指導力の向上を図り、質の高い授業の実現を目指します。
- ・ 全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
- ・ 各中学校区の管理職や学力向上担当者と共に、共通の課題や学力向上策について協議し、国語や数学をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。
- ・ 基礎的読解力（リーディングスキル）を高めるために、小・中学校と協力して実践研究を行い、効果的な指導法等について広く発信していきます。
- ・ 英語科の授業を中心に、A L T（外国語指導助手）を積極的に活用し、子どもたちが生きた英語に触れ、英語を使って実際にコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるような機会を設けることで、英語を学習することの必要感や学習意欲の向上を図ります。

○ 家庭学習の充実に向けて

本市の生徒は「家で自分で計画を立てて学習している」と回答する割合が全国平均を上回っており、主体的に学習に取り組む態度が育ってきていると言えます。

生徒がさらに意欲的に粘り強く家庭学習に取り組むために、量的な確保と質的な改善を図っていきます。

本市では、「家庭学習のスタンダード(福島市版)」を作成し、各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めます。また、家庭学習におけるタブレット端末の活用についても、より効果的になるよう工夫改善を図るとともに、効果等を保護者の皆様に周知していきます。

保護者の皆様へ

学力向上は学校に課せられた最大の責務であり、全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった本市の課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、今後も、授業改善等の取組を推進してまいります。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果からも、本市の児童生徒が家庭において主体的に学習に取り組んでいる様子がうかがわれ、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

お子さんの学力向上には、学校と家庭の連携が欠かせません。今後におきましても、家庭でのお子さんの学習習慣の確立に向け、以下の点について引き続きご協力をお願いいたします。

- 十分な睡眠時間の確保、「早寝、早起き、朝ご飯」、テレビやゲーム、スマートフォンの利用時間や利用方法等についての話し合い（ルールに基づいたメディアコントロール）など、望ましい生活習慣の確立が不可欠です。
- お子さんが「決まった時刻に、決まった場所で」落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整えることが大切です。その際、十分な家庭学習時間が確保できるよう、生活リズムの改善などについてのご助言をお願いします。
- お子さんの話に耳を傾け、様々な話題で会話する場面を積極的に設けてください。相手の話を最後まで聞き、相手の考えを受け止めて、自分の考えを伝えようとする意欲につながります。
- お子さんの頑張りを大いに褒めてあげてください。ご家族からの温かい言葉や励ましは、子どもたちが学習に取り組む意欲の向上に大きく影響します。
- お子さんが主体的に考えたり、新しい考えを生み出したりするには、自分自身で決定する（自己決定）機会をつくるのが大切です。